

国際シンポジウム「レジリエント・コミュニティ ―私達の住まい、私達の地域、私達の復興―」 が開催されました（2015/3/16）

テーマ：国連防災世界会議

場所：東北大学川内北キャンパス マルティメディアホール

仙台市で開催された国連防災世界会議のパブリック・フォーラムのひとつとして、2015年3月16日（月）に「レジリエント・コミュニティ ―私達の住まい、私達の地域、私達の復興―」が開催されました。本シンポジウムは、地域・都市再生研究部門 国際防災戦略分野(村尾研究室)と国連ハビタットの共催により、2004年インド洋津波や2011年東日本大震災被災地の市長やコミュニティ・リーダーを招き、コミュニティ・レジリエンスを高めるための取り組みを共有するという意図で企画されました。

日本女子大学の薬袋奈美子准教授による総合司会のもと、国連ハビタットの佐藤摩利子氏がモデレーターを務め、イリザ・ピンティ・サアドゥディン・ジャマル氏（インドネシア バンダアチエ市長）、マイトリー・ジョンクライジャック氏（タイ カオラック バンナムケム）、マウン・マウン・ミント氏（国連ハビタット ミャンマー）、柴田渥氏（岩手県釜石市）、シェリル・パデュロ氏（フィリピン レイテ島 DAMPA）、そして宮脇茂俊氏（大分県佐伯市宮野浦地区）が、自らの体験を順番に発表しました。

後半に村尾修 教授により各自の発表が整理されると、来場者とともに論点を絞った議論が繰り広げられました。



会場入口



パネル・ディスカッションの光景



パネリストによる発表のまとめ



パネリスト集合写真